

2021年11月14日 大井バプテスト教会 礼拝説教

説教題「分かち合うもの」 ローマの信徒への手紙1章9-12節 牧師 広木 愛

**「9:わたしは、祈るときにはいつもあなたがたのことを思い起こし、10:何とかしていつかは神の御心によってあなたがたのところへ行ける機会があるように、願っています。11:あなたがたにぜひ会いたいのは、“霊”の賜物をいくらかでも分け与えて、力になりたいからです。12:あなたがたのところ、あなたがたとわたしが互いに持っている信仰によって、励まし合いたいです。」 ローマ1:9-12**

新しい礼拝堂は、心のバリアフリーを大切に・・・と心だけでなく、いろんな人が過ごしやすいために、建物がバリアフリー対応になっています。礼拝堂が出来上がるまで、コロナの中でも、わたしは毎週礼拝の音響と配信に携わるという特権をいただいて、毎週教会での礼拝をおささげすることができました。

教会に集まりたくても集まれなかった方々の祈りが、今日のパウロの祈りが共鳴してきこえてきました。オンライン礼拝の間、みなさんが礼拝の時間、オンラインで、週報と説教原稿で、また家庭礼拝で、きっと「大井教会の礼拝堂で見えていたあの、あの、名前には知らないけど、毎週あの辺に見えるあの・・・のことを思い起こしながら、何とかして、いつかは神様の時、御心によって、あなたがたのところへ行ける機会があるように」という一人ひとりの祈りが積み上げられて、こうして2回の分散礼拝まで導かれたのだらうと思います。

そして、この分散礼拝が始まって、バリアフリーであるはずの礼拝堂に、バリアがあることに気が付かされました。

集まって気づいたこと。それは音についてです。いろんな音の聞こえ方をする人たちがいることを私たちは知っています。私自身も突発性難聴をしてからは、いつも完璧に聞こえるわけではありません。そして視力も悪いので、普段はメガネやコンタクトレンズをしています。中にはきっと補聴器や集音機を使っている方もいらっしゃるのではないかと思います。オンライン礼拝中は、補聴器や集音機が、この素敵な反響の音との相性が悪いということまでは、全く気が付きませんでした。

また、今までの礼拝堂では、多少大きな声を出せば、礼拝堂全体や舞台、2階にも声が聞こえていました。オンライン礼拝が始まって、マイクを通さなければ、届かない音があるということにも気が付かされましたし、1階の受付で奉仕をされている方には、礼拝の音はマイクを通さなければ、その音が届くことはない。

バリアフリーといいながらも、便利になって逆に、バリアができた部分も少なからずあるという気づきに導かれたのは、みなさんと礼拝をこの礼拝堂で分散礼拝でも、一緒にできたからです。

神さまから礼拝への招きを受けて、その時間を大切に切り分けてくださったことが、ただ礼拝をしているだけでも、パウロのいう「霊」のたまものを分かち合うことができているのだと実感します。礼拝を共にするだけで、だれかの「力」になることができるのです。礼拝に集うことが、だれかの励ましになるのです。

今日は、子ども祝福式が行われました。小児科のみなさんが一緒に礼拝に集ってくれる日です。きっと小児科のみなさんは、よし、今日は大人を励ましてやろう！力を分けてあげよう！なんて思っただけで今日に臨んではいないと思います。

パウロは、自分がローマにいてだれかを助けてやろうってこの手紙を書いたわけでは・・・ないと思います。もし、ローマの人たちが、「あ、パウロさん、伝道しているの？わたしたちも同じ神様を信じているけど、パウロさん関わったら面倒くさそうだから、しーらない」って言われていたら、きっとここまで一生懸命にローマに行きたい！という手紙はしたためません。ローマでも、主の礼拝に集う人たちが、パウロさんの働きに共鳴していた。だから、パウロはどうしても、ローマにいきたいと願っていたのだらうと思うのです。

子どもたちが礼拝堂にきて賛美をすると、みんな笑顔になって、元気をもらったね～って感じます。子どもたちのパワーは大きいです。でも、きっと、一緒に礼拝をする私たちは、だれでも、思わぬだれかを励まし、思わぬだれかをもうちょっと頑張ろうって一歩を踏み出す力を与えているのだらうと思います。礼拝を分かち合うということは、生きること、いのちを分かち合うこと。誰と・・・分かち合うのか・・・それは大井教会が建てられているこの大井の地を中心にしてこの周りに住む人たちと分かち合うことだと思っていますが、それも、これから教会全体で考えていいことなののだらうと思います。

新しい礼拝堂でささげる礼拝で、何を分かち合うことができるのか、それは、これまでの大井教会信仰の先立たちが重ねてきた祈りに励まされつつ、今、神様が主の教会に託して下さる神様の働きと一緒に聞いて、みんなでそれを分かち合っていくことができるのだらうと思います。神様の働きって、一体何なのか、一緒に確認し、そのために、どんな礼拝を、どんな祈り会を、どんな教会学校を、どんな各会や委員会の活動を行なっていくのか、誰かの知恵ではなくて、主の教会につながるすべての人と一緒に考えていくプロセスを神様が準備してくださっていることを期待しています。